

今日の説教のポイント <使徒言行録9章32~43節>

①「ペトロは方々を巡り歩き、リダに住んでいる聖なる者たちのところへも…」(32)

使徒言行録を記したルカは、パウロの回心の出来事を終えて、再びペトロの話に戻ります。リダは地中海に向かうユダヤ境界の町。10章で、いよいよ異邦人への伝道が問題になって来ます。それに向かう中で起きた奇跡の出来事です。

②「ペトロが、『アイネア、イエス・キリストが癒して下さる。起きなさい。自分で床を整えなさい』と言うと、アイネアはすぐ起き上がった。」(34)

不思議な奇跡が目が行きがちですが、ここでペトロ自身が、「イエス・キリストが癒して下さる」と言っている点に注目です。ペトロが不思議な力を持っていて、それで癒したわけではありません。「これと同じような奇跡を生前に何度も起こされたイエス・キリストは、今も同じことを起こすことのできるお方なのだ」、そうペトロは信じており、そしてそれは成ったのです！ある人がこう表現しています、「無力と囚われと束縛のあったところに、この言葉と名は新しい可能性を作り出した」と。次の話のタビタは死んでいたのに蘇りました。しかしそのタビタもいずれは死にます。アイネアも歳をとり体も弱って来るでしょう。でも、それでいいのです。彼らは、生も死も支配しておられる神様、全てを安心して委ねることのできる神様を知り、そのお方に従って生き出したからです。「イエス・キリストを信じる者となりなさい」、という神様の呼びかけにお応えして歩み出したからです。

「床を整える」とは、ユダヤでは食事の席に着くことを言います。すなわち、主は「起き上ったら、私たちの食事の席に加わりなさい(信じる者、弟子となりなさい)」と命じられたのです。自分を無力から解放し、新しい可能性を用意して下さる神様。その神様を主イエスに見て取ったアイネアは、すぐにイエス様の下に従って生き出したのです。「リダとシャロンに住む人は皆アイネアを見て、主に立ち帰った」とあります。彼は信仰のよき証し人となったのです。

③「ヤッフアにタビタ…と呼ばれる婦人の弟子がいた。彼女はたくさんの善い行いや施しをしていた。」(36)「やもめたちは皆そばに寄って来て、泣きながら、ドルカスが一緒にいた時に作ってくれた数々の下着や上着を見せた。」(39)

新約聖書で唯一、「弟子」の女性形が出て来る所です。そのタビタは、当時の社会において最も底辺に属する女性の、しかも「やもめ」たちに献身的に仕え尽くした人でした。ここにも、イエス・キリストの到来によって、まだ完成はしていないけれども到来し始めた、新しい世界を見つめながら生きた人(すなわち、信仰者!)の姿があります。タビタのしたことは今でいう慈善活動にあたるでしょう。その根底に、十字架の死に至るまで私たちのために仕え尽くして下さったイエス様の無償の愛の姿があり、その犠牲の死によって私たちが赦され生かされていることへの感謝の念があったのです。私たちもこのタビタに倣い、共に仕え合って生きる教会を築きながら、人々にこの聖書の福音を伝えて行こうではありませんか。